

「母は強し 戦国時代の女性像 — 由良成繁の妻、妙印尼 —」

桐生市街地の北に、春になると山頂だけが桜色に染まる山があります。柄杓山城跡です。戦国時代にこの城を拠点とした由良成繁には、妙印尼という妻がいました。この妙印尼が戦国武将の前田利家から受け取った手紙が、伝えられています（前田利家書状）。

天正18（1590）年、

関東に勢力を誇った小田原北条氏は豊臣秀吉軍の攻撃を受け、その支配下にあった桐生の地も脅威にさらされます。

すでに夫の成繁はなく、息子である国繁も小田原城に籠城していました。妙印尼は、当主不在の桐生の地を、孫の貞繁を擁して守ったので

す。そして、攻め込んできた豊臣軍へお家存続を願い出しました。その相手が秀吉の重臣、前田利家でした。利家は秀吉への仲介を約束します。それがこの手紙です。結果、秀吉は妙印尼に常陸国牛久（茨城県）に領地を約束します。

これ以前、当時の居城金山城（太田市）を、北条氏

へ渡すように求められたことがありました。これを拒否した国繁は捕らえられ、攻めてきた北条軍を前に妙印尼は家臣を率いて金山城を守りました。秀吉は、この功績を重く受け止めたのです。

夫の成繁の墓は、由良家菩提寺の鳳仙寺（梅田町一丁目）にあります。一方、妙印尼の墓は得月院（茨城県牛久市）にあります。戦国時代を生きた夫婦は、それぞれ離れた地に眠っています。

問い合わせ〓市史編さん室
(☎47335)



▲前田利家書状（金谷文書）
1行目「新田御身上」は由良国繁の身上を指します。



▲由良成繁の墓（鳳仙寺）

パチリいい顔 桐生っ子

市内に居住する3歳まで（申し込み時）の桐生っ子を募集します。

申し込み = Eメール（miryoku@city.kiryu.lg.jp）にお子さんの氏名（ふりがな）、生年月日、住所、保護者氏名、電話番号を記入し、お子さんの画像データを添付のうえ、魅力発信課（☎内線505）へ。



せき とうが
関 翔駕ちゃん
8か月
(新里町武井)



わたなべ いとま
渡邊 愛巧ちゃん
10か月
(川内町四丁目)



たかの しんぺい
高野 進平ちゃん
2歳1か月
(相生町二丁目)

広告